

令和6年度 自己評価書

令和7年3月21日
真庭市立湯原こども園
園長 池田 由子 印

1. 湯原こども園の教育保育目標

保育方針

○人としての基礎が作られる重要な時期である乳幼児が、健康・安全で情緒の安定した生活ができるように、保護者、家庭、地域と連携を図り協力し合うことにより、心身ともに健やかに育つ保育・教育をめざす。

教育・保育目標

「人や物、自然とのつながりの中で、
心身ともにたくましく心豊かに育つ子どもの育成」

よく見て、よく聞いて、よく考えて行動する子どもをめざして

2. 本年度の重点目標

本年度研究テーマ

「心も体も健康でたくましく、主体的に活動する子どもをめざして」

○健全な心と体を育む保育の充実

- ・のびのびと遊ぶ中で、健やかな心と体を育む。
- ・自ら心をゆさぶられる体験を通して、夢中になって遊ぶ中で主体的に環境に関わり、探究心・思考力を育む。
- ・戸外遊びや体を思いっきり動かして遊ぶ楽しさを味わいながら、体力の向上につながる保育実践。
- ・自然と触れ合い自然に興味をもてる環境を整え、主体的に関われるような働きかけを行い活動意欲を育成する。

○子育て支援

- ・保護者や地域の方と連携し、地域の子育て支援を充実させる。

○家庭・地域と共に育てる

- ・ここの交流では、安心して就学できるように子どもの学びや育ちを繋ぐ。
- ・地域の方と連携し、世代間の交流を図る。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	子ども主体の保育計画を立案し実践した。子どもの姿を振り返り、職員間で省察、対話の重要性を再認識しながら保育計画を進めた。	3
行事	行事計画は、子どもの育ちに繋がる部分を大切に内容を検討した。今後も子どもに経験して欲しいという願いを中心に捉えての計画に努めたい。	3
組織・運営	職員間の連携を常に意識し、責任をもって職務に携わった。話しやすい雰囲気を中心に協力体制の強化に努めた。	3
学級経営	信頼関係を基盤に子どもの姿を丁寧に捉え、内面理解に努め子どもの育ちを支えた。クラスの実態においては、職員間で共有し合ったことがより子ども理解に繋がった。	4
特別支援教育	家庭、関係機関と連携を図りながら、保護者の気持ちに寄り添い相談しやすい関係づくりを大切にしたい。一人一人に合った支援の方法を探り、職員で共有した。	3
安全管理・保健指導	安心安全な保育環境となるように、外部からの専門的な知識を学んだ。火災・水害・地震・不審者等、状況に応じた訓練を実施した。	3
研修（資質向上）	職員は自身のスキルアップを目指し、保育に活かせるよう積極的に研修会に参加し自己研鑽に努めた。知り得た知識を他の職員の学びの場となるように活かしたい。	4
情報提供・保護者・地域との連携	本年度は、コドモンを導入した。保護者へ保育の様子等、情報を効率よく発信することができた。地域の人との交流で人と関わる力を育てる計画を引き続き検討していきたい。	3
小学校との接続・連携	交流会に参加することで、就学に向けて期待が高まった。就学に向けて不安なく過ごせるように切れ目のない支援を行い職員間で連携を深めていくことが大切となる。	3
子育て支援	一時預かり事業では、地域のニーズに応えられるように人員を確保し実施したが、要望に添えない日もあった。保護者が子育ての不安や悩みを相談しやすい園となることが課題である。	3
食育の推進（給食）	栽培活動を通して食べることへの意欲に繋がった。季節に応じた食材、行事を通しての食文化、地元の食材調理等、担任と調理員との連携によって進めることができた。食育については保護者への働きかけも大切である。	3
食事の提供（調理）	安心安全な給食提供を徹底した。職員が連携し、声を掛け合いながら、アレルギー児への細やかな対応に努めた。	3

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
保育の質の向上	職員が子ども一人一人の姿を丁寧に捉えながら子ども理解に努め、日々の対話を通して意見を出し合い遊びの工夫や支援の方法を探り実践していった。	3

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

本年度の重点目標に沿って保育していく中で、子どもが好きな遊びに意欲をもって取り組み、「もっとやりたい」「もっとやってみたい」と夢中になって遊び心ゆさぶられる姿は、子どもが主体的に様々な環境に関わることから培われている。そこには保育者との信頼関係が基盤となり、心が安定し、友達との感情交流もまた遊びへの意欲に繋がっていくと考えられる。職員間で対話を重ね、子どもを理解し、子どもの育ちや学びの方向性を共有していくことも大切と考え、今年度重点的に取り組んだ。子どもを見取る丁寧な保育が実践でき、のびのびと遊び健やかな心と体の育ちに繋がった。引き続き保育者は、子どもの内面に寄り添い、子どもを肯定的に捉え、子どもの興味・関心に気づき、子どもが安心して新たな課題に挑戦できるような援助を探っていききたい。

異年齢児交流では、触れ合い遊びや体操、運動遊びを通して、個々の子どもが自然に関われるようにとの思いで計画をした。同年齢のクラスの中だけでは気づけない遊びの面白さを子ども自身が見つけていたように思う。また、その時期ならではの自然事象はのがすことなく遊びに取り入れた。自然環境との関わりの中で子どもの根気強さ、体力の向上に繋がった。小学校との交流会では、回数を重ねることで子どもが就学を楽しみに待つことにができています。園から小学校へ育ちの連続生を繋いでいけるよう今後も連携を強化していききたい。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

職員が子ども一人一人の発達を丁寧に捉え、個々の興味・関心を大切に保育活動をすすめていくことができた。「子どもの思いや気持ちを大切にしているか」の保護者アンケート結果からも理解が得られた。職員間の共通理解のため、時間を有効に使い、保育の「エピソード」をもとに保育者同士が語り合うことにより、子どもへの新たな気づきもあった。今後も職員間での話しやすい雰囲気作りに努め、園内研修を充実させていきたい。また、アンケート結果を踏まえ、保護者が子どものことについて、園に気軽に聞いたり相談できる子育てに寄り添える園となるように努力していききたい。

一時預かり事業も実施しているが、人員が確保できず受け入れができていない日もあった。地域の保護者のニーズに応えられるように充実させたい。

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である